

## 5. 実施事業紹介

---

### 事業（1）第37回新潟JCフォーラム

「地域の課題は自分たちで解決する！」

～新しい地域コミュニティの姿を目指して～



#### ◆事業背景

これまで地域コミュニティが担ってきた、住民相互の扶助や自治、文化の継承や保存、災害・緊急時の対応などの役割が弱体化しています。これは市民のライフスタイルや価値観の多様化に伴い、人間関係が希薄化していることによるものです。また独居老人の孤独死や乳幼児の虐待などの異常事態が我々の社会には横たわっており、地域住民同士のコミュニケーション不足による社会問題のひとつとなっています。これらの問題解決のためには住民同士の助け合いのもと「身近な生活の場である地域の課題はそこに暮らす自分たちの責任で解決する」という市民意識の変化が求められます。市民ひとり一人がこの価値観を共有し、その地域特性や実態に即した地域コミュニティ活性化に繋がる活動を自発的且つ継続的に起こせるようにするために本事業を企画いたしました。

#### ◆事業内容

地域の課題は自分たちで解決しなければならないという意識醸成のために地域や社会のために活動しているリーダーをお招きし講演とトークセッションを実施しました。

従来からある「地縁活動」と同じ志を持つ人同士の「志縁活動」の2つの視点から地域コミュニティのあり方について講演や議論をしてもらいました。

第1部では地域コミュニティ研究の第一人者である高崎経済大学准教授 櫻井常矢氏による講演、第2部では白山校区コミュニティ協議会 副会長の三崎晋氏、子育て応援施設「ドリームハウス」代表 新保まり子氏をパネリストにお招きし講師の櫻井常矢氏とトークセッションを実施しました。

地域コミュニティが担っている地域住民同士の助け合いの精神や自治、文化継承や保存と防災機能が弱体化してきている今日、行政に頼り切った地域住民の意識を変革し「身近な生活の場である地域の課題はそこに暮らす自分たちの責任で解決する」という意識醸成が必要です。そのために講演を実施し現在の日本各地の地域社会の現状把握と問題点を理解してもらいました。

またトークセッションでは地域住民で構成される地縁団体と同じ志を持つ者同士から構成される志縁団体の2つの視点から地域コミュニティについて議論していただきました。地縁団体では、活動する住民に偏りがあり、いつも特定

の人が活動していることや、役員の高齢化による制度疲労などの問題点が浮き彫りになりました。また志縁団体では活動を維持するための苦労が絶えず、活動に自発的に協力してくれる参加者確保が問題であることが分かりました。

これらの問題解決のためには市民ひとり一人が自発的に地域や任意の団体活動に参加し、お互いに問題点を共有し、その地域特性や実態に即した地域コミュニティ活性化に繋がる活動をしてゆくことが必要であることが分かりました。また、同じ内容の活動をする団体が共に活動することで、様々な面で負担の軽減が図れ、規模も拡大して実施できることが指摘されました。



#### ◆講演要旨

- 行政だけでは解決出来ない多様で複雑な課題が地域にある
- 住民のボランティア活動への意識は高まっている
- 地縁活動だけでは自己完結（自己解決）できない
- 志縁活動だけでも自己完結できない
- 自分たちで出来ることと出来ないことを見極める必要がある
- しっかりとした地縁組織に志援活動を埋め込んで連携する  
（横糸と縦糸の関係）
- そこには両者を結びつける「つなぎ役」が必要である
- 行政も地域の活動を支援し協働することが求められる
- 閉鎖的な自治組織を脱却し、外に目を向け活動を共に出来る志縁組織との連携が今後ますます求められる

## ◆トークセッション

地縁団体と志援団体を代表するパネリストの話から、まだ両者の活動はかみ合っていない事が分かりました。日本には町内会、自治会が組織されていて、外国と比べれば枠組みとしてコミュニティは確かに存在しています。特徴としては無私性や排他性が指摘されています。



地域活動の最終的な目標は、人づくりであり、また丁寧な人間関係づくりであります。そこに至るために様々な手法を尽くしてグループ毎の活動を実施し、地域全体の一体感、連帯感を醸成するために夏祭りなどの大きなイベントを実施することも必要です。

地域活動の主体はあくまでそこに暮らす住民です。これは決して「補助金が出るから」や「役所から急かされるから」するものではありません。逆を言えば補助金が出なくなったら、地域の活動は進まなくなったでは意味がありません。そうではなく、地域住民が自発的に継続的に当事者意識を持って活動に取り組むことで自律した地域ができあがります。地域の実情、例えば独居老人が多く「限界町内」が存在すること、女性同士が集い情報交換する場が無いなどの課題を知っている事が前提となります。この課題が見えてくると解決の原動力となるし、人々はお金ではなく心で動けます。その上で役所頼みではなく、その力を利用しながら本当に自分たちが解決する課題に取り組む姿勢が求められます。

地域の世話役は地域の人をよく知り、能力を見る目を持つ必要があります。地域の活動は基本的にボランティアであり、班長などは義務的に役割が回ってくるのが一般的でしょう。民間企業は限られた人材をどう組織の中で生かすことが出来るか適材適所を常に考える必要があるのと同様に、地域活動においても不得意なことをするように求められるより、住民の能力や適正に応じた活動の方法や居場所があるはずです。そこを上手に見極めることで、参加してくれる人に気持ちよく役を担ってもらえると考えます。

しかしながら、個人情報保護法は1つの大きな壁として地域に立ちはだかっているのが事実です。この壁を越え、協力体制を構築するために日頃の地道な活動が求められます。具体的には地域の人を知ること、挨拶をすること、話しかうこと、そして信頼関係とネットワークを築くことです。

人間が暮らしていくには必ず社会と交わりがあります。そして困ったり、助けを必要とする時が必ずあります。そこにはお互い様の原理が働きます。活動を通して認められる、他人に褒められる、地域に自分の居場所があり疎外され

ていない、貢献に対して感謝される、このような事で人間は幸福感を感じて地域に継続的に参加できることでしょう。地域に関わり人の役に立つ事で、幸福感を得ましょう。この「自己有用感」を感じられることがとても大切です。

#### ◆地縁団体と志縁団体の連携活動例

東日本大震災の被災地支援のため、新潟青年会議所は新潟市・新潟市社会福祉協議会と連携し、広く市民から支援物資募集及び募金活動を実施しました。鳥屋野球技場にて支援物資を受け付け、品目別に仕分け荷造り・荷積みをして、支援物資の集積場へ持ち込むまでをボランティア活動の主体として実施しました。

自分の地域のことでなく、他県の被災した方のために市民の「何かしたい」「助けたい」という想いを結集し、被災地に送り届ける活動です。新潟市という地域（広義での地縁組織）と新潟青年会議所など（志縁組織）が協力して成し遂げた活動です。

地域住民（地縁）だけでは不可能な活動も志縁組織と協働する事で大きな力を発揮できた事例だと考えます。



## アンケートからの参加者の声

### 事前アンケート

問. 身近な生活の場としてのコミュニティを良くするために、あなたは何か出来ることはありますか

- ・ 自治会で行うバーベキュー大会等を通じてコミュニケーションを図る
- ・ 日頃からのお付き合い（声かけ）
- ・ 隣人の一人暮らしの老人に声かけをする
- ・ 住民の和を作るリーダーが必要と思います
- ・ 新しく何かしようというのも大切だが、今やっている活動に多くの人に参加してもらう方が良いと思う
- ・ 飲んだり、食べたりしながらの話し合い
- ・ 田舎と違って都会では難しいですが町内で運動会等をするのも良いかと思えます
- ・ 地域の助け合いをなるべく多くしたいと思います
- ・ 私のマンションでは年に一度ロビーで無料コンサートをしています。年一度ではなくこのような活動が増えれば良いと思います
- ・ 町内住民の顔が分かるような、参加しやすい活動
- ・ お互いよりよく生きるために、お互いに認め合い、助け合い、高まりあうようにしている

### 事後アンケート

問. 地縁活動・志縁活動がもっと参加しやすくなるためには、何が重要だともいますか

- ・ 日頃の声かけ等が必要
- ・ 人生を豊かにするためという認識を持つこと
- ・ それぞれの活動をしている人が持っている「壁」を取り除き、普段の活動とは関係ないと思われる人達とも交流していくことも重要
- ・ 地域の人材育成と参加（特に若手・主婦層、30・40代の）マンネリ化の打破が必要
- ・ 地縁・志縁関係なくお互いがお互いの活動を知り情報を共有すること
- ・ 明確なテーマとリーダーシップ、誘ってくれる存在、フィードバック
- ・ ソーシャルキャピタルからのワーカーの育成
- ・ 特定の人達だけでなく、多くの人を巻き込むような仕掛けや、それぞれに役割や必要とされるような形づくり